

がく じ 学 而

摂南大学図書館報

No.106 2025.3



摂南大学図書館所蔵

「ローブ・クラシカルライブラリー」

ローブ古典叢書” The Loeb Classical Library” は、ギリシャ・ローマの古典に親しむ機会を研究者だけではなく、教養層の読者にも広く供することを使命とし、1911年に James Loeb によって創立されました。本学図書館では、これらを200冊以上所蔵しています。

(紀伊國屋書店・営業総本部 「教育と研究の未来」から抜粋)

CONTENTS

- | | |
|--|----------------------------------|
| ● 知の壁を越えて:実存主義と生成AIが導く思考のラリー 2
学長 久保 康之 | ● 教員と図書館学生サポーターが選ぶ推薦図書 …………… 10 |
| ● 図書館で人生を豊かに …………… 4
図書館長 柳沢 学 | ● 枚方分館ニュース …………… 12 |
| ● 『逝き方を考える』ことは『生き方を考える』こと
-最期を見据えて、今を考える- …………… 6
看護学部 准教授 但馬まり子 | ● 図書館学生サポーター活動 …………… 13 |
| ● 私の「Geosymbiosis(ジオシンビオシス) /
地球共生デザイン」誕生に影響を与えてくれた本たち … 8
理工学部 准教授 白鳥 武 | ● 2024年度図書館学生利用者アンケート結果 …………… 14 |
| | ● 図書館利用統計 …………… 16 |
| | ● 2024年度図書館入退館調査 …………… 17 |
| | ● 電子ブックを活用しよう! …………… 19 |
| | ● 2024年度摂大文化大賞・編集後記 …………… 20 |

知の壁を越えて： 実存主義と生成 AI が導く思考のラリー

学 長 久保 康之



2024年4月、本学に新たに農学研究科が設置されました。私は学長職にありますが、その設置教員の一人として、現在4名の大学院生を指導しながら、研究活動にも力を注いでいます。専門分野は植物病理学です。植物も人間と同じように病気になるります。とりわけ感染症は深刻な問題です。世界では、年間およそ8億人分に相当する農産物が病原菌の感染によって損失を受けていると推計されています。私は、植物病原糸状菌(カビ)がどのように病気を引き起こすのか、その仕組みを解明し、効果的な病害防除対策を見出すための研究に40年近く取り組んでまいりました。

2023年8月、大変光栄なことに、フランス・リヨンで開催された第12回国際植物病理学会において、名誉あるFellow(栄誉賞)を拝受する幸運に恵まれました。そして、この意義深い訪仏の機に、新旧の友人の研究者と交流しました。まずはパリのパリ-サクレ大学を訪れ、30年来の知己であるR. O'Connell博士と再会し、植物病原菌の感染機構についてセミナーを行いました。続いて、ストラスブールへ足を運び、現在、進めている「植物病原菌をモデルにしたヒト遺伝子疾患治療薬のスクリーニング」に関する研究について、ストラスブール大学のF. Pflieger博士と実り多い議論を交わしました。研究者としての交流の喜びの余韻とともに、リヨンへと旅を締めくくりました。パリ、ストラスブール、リヨンを巡るフランス訪問は、学術的にも文化的にも非常に充実した時間でした。これらの都市を回るなかで、フランス独特のエスプリや街角に漂う知的な空気感も楽しみ、40年にわたる研究者人生を静かに振り返り、次なる一步を見据えるとともに、未来へと続く研究の道のりをあらためて思い描くことができました。

そのような中、「実存主義者のカフェにて—自由と存在とアプリコットカクテルを(サラ・ベイクウェル〔著〕 向井和美〔訳〕、紀伊國屋書店、2024)」という本に出会いました。この本は、ハイデッガーやサルトル、ボーヴォワール、ヤスパース、アーレントといった実存主義の思想家たちを、彼らの思想の系譜とともにドキュメンタリー風に語っ

たものです。純粋な哲学書では難解になりがちな実存主義の思想が、彼らの人生の軌跡を絡めて描かれることで、リアリティを持ってその輪郭が浮かび上がります。

少々「実存主義かぶれ」かもしれませんが、生成AIが台頭する時代に、「実存主義」と「植物病理学」を掛け合わせて考えてみたい欲求に駆られました。ソフトバンクの孫正義会長は株主総会での講演で次代のパラダイムを形作るもっとも大きな要素は生成AIであると強調されていました。「思考の壁打ち」と称して、日常的に生成AIを活用していると語っています。「壁打ち」とは、テニスで壁に向かってボールを打ち返すように、自分の考えを鍛える行為を指します。そこで、生成AIのChatGPTに「植物病理学という学問を実存主義から解釈することはできますか。」と問いかけてみました。生成AIから返ってきた答えは驚くほど興味深いものでした。ChatGPTは、植物病理学を実存主義の観点から再解釈するという難題に対し、植物と病原体の関係を「生存をめぐる対立」として捉えたり、植物の病原菌に対する防御反応を「生き残るための意思」と見なししたり、研究者の活動を「自己の存在意義を追求する行為」と考えるといった新鮮な見方を提示しました。それはまさに、知的な「壁打ち」を通じて私たちの思考が拡がり、また戻ってくる感覚を実感させるものでした。そんな余韻を感じながら、ある日、キャンパスの食堂で、職員数人と昼食をとりながら、大阪の文化や人間関係の特徴について話がおよびました。その中で、大阪人は会話の最後に「知らんけど」という言葉を意識せず付け足すことが多いですねという話題になりました。そこで、私はここでも好奇心を発揮して、生成AI(ChatGPT o1 pro mode)に問いかけてみました。質問を連続して2つ投げかけています。その回答を紹介します。

Q1：関西人あるいは大阪人は会話の最後に「知らんけど」という言葉を足すことが多いです。これを「実存主義」から解釈してください。

A1：「知らんけど」というフレーズを実存主義的観点から解釈すると、それは絶対的真理や客観的根拠への依存から離れ、発話者が自らの有限性や不確定性を引き受ける行為として捉えられる。実存主義は、主体が自らの存在を根拠なき世界において「投げ出された」ものとして捉え、己の有限性・不確定性・不安を正面から引き受ける立場を重視する哲学である。その文脈において、大阪人が会話の末尾に「知らんけど」を付与する言語行為は、以下のような実存的意味を帯びていると解釈できる。

1. 絶対的保証の放棄: (略)
2. 主体的自由の行使: (略)
3. 実存的不安との共生: (略)

実存主義は「不安」が人間の根底にあることを認める。人間は世界の本質的曖昧さ・不安定さにさらされ、自己の判断が最終的な正しさを保証できない状態を常に抱えている。「知らんけど」は、この根源的不安をそのまま言語表現に反映させているともいえる。つまり「私が今ここで述べた考えは、あくまで私という現存在が紡ぎ出したものであり、何か絶対的な安定をもたらず認識体系に裏打ちされたものではない。その不安定さを、私は意識している」という暗黙のメッセージが、「知らんけど」という語尾には潜んでいる。総じて、「知らんけど」という言い回しは、実存主義的に見ると、言語行為者が自らの有限性、自己自身の判断や理解の不確かさを自覚しながら、それでもなお発言し続けるという、「根拠なき世界での主体的語り」を象徴している。これは、自己の発言を絶対的な真理として提出することを拒みながらも、自己の主体性を行行使し、自分なりの意味を紡ぎ出そうとする、ある種の「実存的誠実さ」を具現化していると解釈できる。

Q2：では、なぜ、大阪人が実存的な行為を日常でのコミュニケーションで定着させているかについて論じてください。

A2：大阪人が日常コミュニケーションにおいて実存主義的な行為とも解釈できる言語習慣（たとえば「知らんけど」の付与）を定着させている背景には、歴史的・社会的・文化的要因が複合的に作用していると考えられる。ここでは、大阪が育んできた文化土壌や社会構造、言語観や価値観が、なぜ「絶対的真理への依存を避け、自らの有限性・不確実性を日常的言語行為に刻み込む」ようなスタイルを生み出したのか、実存主義的観点を援用しつつ論じてみる。

1. 都市空間としての大阪と不確実性への親和性: (略)
2. 笑いとアイロニーの伝統による絶対性への懐疑: (略)
3. 集団アイデンティティと対人配慮: (略)
4. 言語感覚としての実存的諦観: (略)

総じて、大阪人が日常的なコミュニケーションの中に実存的な行為を定着させている背景には、不確実な商業環境、笑いを通じた相対化の文化、人間関係における柔軟な距離感、そして言語感覚に根付いた軽やかな諦観がある。それらが複合的に作用することで、発話の中で自らの有限性や不確かさをあらかじめ示し、絶対的真理に依拠しない「知らんけど」的なスタイルが日常言語として固着したのである。これを実存主義的に解釈すれば、大阪文化の基底には、人間存在の不安定さを正面から引き受けつつ、他者と笑いと対話を通じてつながっていく、持続的な生の様式が垣間見えるといえよう。

以上が生成AIによる「知らんけど」の哲学的論考です。最後の結語「大阪文化の基底には人間存在の不安定さを引き受け、他者と笑いと対話を通じてつながる持続的な生の様式がある」は秀逸で、知的好奇心を喚起するものでした。生成AIの能力には大いに感銘を受けました

が、それ以上に、問いかけた「実存主義」という概念が人間や社会を的確に包摂しているのではと思念しました。私たちが「生きる」という行為のなかには、「不条理」「自由」「選択」が凝縮されているのではないか。それが、意味ある思考を誘引するのではと。さらにこのことは、どのような視点や知見を「掛け合わせる」かを磨いていくことが、これからの時代に求められる「知の要件」ではと考えさせてくれます。これこそ「思考の壁打ち」であり、よく「問い」、よく「学ぶ」行為としての「学問」の真髄に通じるのではと思います。

大学における学問や教育のあり方を改めて振り返ってみたいと思います。偏差値によるカテゴライズやレッテルから自由になったとき、私たちは何を成し遂げることができるのでしょうか。「実存主義者のカフェにて」では、サルトルの言葉を通じて「実存は本質に先立つ」と語られています。これは、人間が社会から貼られるさまざまなレッテルよりも、自分という実存がまず先にあり、自らの責任において自由を切り拓いていける存在であることを意味します。つまり、自由とは与えられるものではなく、自分自身のものとしてどう掴み取るのかが問われているということです。理想論かもしれませんが、大学教育は偏差値や就職率といった外部的評価に縛られる場ではなく、学生が自らの実存的可能性を切り拓く自由な空間であるべきだと思います。大学教育は、レッテル化された価値観を超え、学び手が主体的に「なぜ学ぶか」を問い続ける営みであり、その営みによって、学生が他者からの評価や制度的基準に依存せず、自己責任の下で知の獲得と活用を行うことができる存在になることにあらずとも思います。培われた内発的な学びへの意志こそが、大学で求められる教育の真髄ではないでしょうか。生成AIが闊歩する時代においてはまさにこの行為が生命線になるように思います。翻って教員の知的探究心がいかに躍動しているかが問われることは言うまでもありません。

今、世界はまさに混沌の時代にあります。20世紀の歴史が示すように、無自覚な空気感の中で自由を放棄し、集団の力に委ねた結果、多くの悲劇が生まれました。この教訓を踏まえたとき、今こそ私たちは再び学問や教育が果たすべき役割に立ち返り、考え続ける必要があるのではないのでしょうか。



図書館で人生を豊かに

図書館長 柳沢 学

図書館の利用者はコロナ禍を経て一時の激減からこのところ来館者数は改善の途にある。また、図書館の室内環境は良好である。館内室温、静寂さ(時に教育的指導は入るが)、および打合せ室や個室、学習施設も設えてある。さらに図書館には、教育(授業)や研究のための専門書が区分けされて書架に並べられている。専門の棚には、一般人向けの書籍もある。そういったものから、これからの人生を豊かにする知識等を吸収してもらいたい。

例えば、「建築」。

建物を観て、美しいと感じる人も中にはいるであろうが、建物に居てそこから外部を眺めて美しいと思える景色や自然を感じる人も多いはずである。その居場所は、人にとっては重要なモノである。

人が生活していく上で必要なモノに衣食住(最近は医食住かもしれない)がある。中でも、風雨がしのげて安心して眠れる居場所である住(居住)の確保は重要である。

普通の人はそれを一人で造る人はほとんどいない。中にはDIYで自家を建てたという人はいるかもしれないが、建築を専門とする人でさえ、ほとんどが建設されたマンションや戸建て住宅を購入する。新しく戸建てを持つとする人は自分の好みを設計に反映してもらうために設計者と熱心に打合せすることになる。

一般の人であっても衣食住の住の知識を持っておいてはどうだろうか。建築基準法の云々、耐震性能云々は専門家(設計者)に任せて、今どきのあるいは終の棲家としての住まいについてである。

このような一般人向け用に難しい専門知識をかみ砕いている書籍^{※1)}もある。ビルはなぜ壊れるのか。近年の自然災害では気候変動のせいかは不明であるが被災規模が大きく被害が甚大である。少し前まででは台風と地震が主ではあった。いくつかのプレート上にある日本は地震に対する検討を避けては通れない。加えて、2001年9月11日には超高層建物等に人為的な攻撃もあった。こういった行為に対しても安全性を確保しようと設計されてはいたが、結果は当該建物への外乱条件を超越したものであり最悪なものとなった。

都市ができるまではどうか。都市の成り立ちを知り都市の未来を考える。都市ができるまで^{※2)}。電気や水はどこから来るのか、トイレの水はどこへ、ごみの行方や橋の形など、インフラストラクチャーから見た都市の歴史を読み解く。



※1 ビルはなぜ建っているか
なぜ壊れるか



※2 都市ができるまで



※3 工匠たちの知恵と工夫

時代や歴史の中における「建物」や都市(都)の役割、造られ方、その存在、荒廃、生まれた文化、文化に与えた影響、宗教との結びつき、想いを馳せる、歴史を官能する、歴史の中で生きやがて土に還る安心感、など。建物から歴史を紐解く、歴史との関係を垣間見る書籍^{※3)}もある。その時代の建築界の背景や技術的特色などについて述べられている。

先日、今年も摂南大学文化大賞の授賞式を行った。芸術、文芸、創作や写真などの作品が学生たちから多く寄せられ、それらの中から、大賞初め優秀作に賞を贈った。人生を生き抜く技術や精神的な支えとなるものが文化である。摂南大学も今年50周年を迎える。摂南大学の文化も育ってきていると感じた。

これから100歳まで生き抜くための知恵や情報を是非図書館に来て探してみしてほしい。

図書館には、図書館職員あるいは図書館サポーターによる企画展示として、いくつかのコーナーが設けられている。新着展示、本屋大賞※4)、質問力を磨こう※5)、各種大賞関連※6)、SDGs※7)、大学生のための論文・レポート応援します、学生サポーター推薦図書※8)などである。

是非、図書館に足を運んでいただき、これらの展示に触れてご意見もいただきたい。毎日の学修に学生は追われている。教育・研究、課外活動、社会活動、大学運営など教職員の業務は多く多岐にわたりスキマがない。そんな中、人生を見つめこころを豊かにするためにスキマ時間を作ってみてはいかがだろう。スキマ時間を快適な環境である図書館で過ごしていただきたい。



※6 各種大賞関連コーナー（本館1F）



※4 新着展示 本屋大賞コーナー（本館1F）



※7 SDGsコーナー（本館2F）



※5 質問力を磨こうコーナー（本館2F）



※8 学生サポーター推薦図書コーナー（本館入口）

『逝き方を考える』ことは『生き方を考える』こと —最期を見据えて、今を考える—

看護学部 准教授 但馬 まり子

はじめに

私は看護師と助産師の2つの資格を持ち、現在は看護教員として母性・助産学領域で周産期に関する講義と実習を担当している。どちらかというと主に助産師教育に携わり、実習では学生とともに出産場面に立ち合い、助産診断及び分娩助産技術を教授している。これまで生命誕生に関する書籍を主に読んでいたが、2024年は実母、実兄、義父と悲しみが癒える間もなく、身近な人々を次々と見送ることになり、「死」ということを考えずにはいられない一年となった。特に実母と実兄は在宅で看取り、「在宅死」についての書籍に関心を持った。

これまで、医療職にありながら助産師という立場上、在宅での看取りについて考える機会があまりなかった。今回いろんな書籍に目を通して感じたことは、在宅での看取りは誰もが望めば簡単にできることではないようである。現状、人生最終段階における国民の希望と現実には大きなギャップがあると言われている。日本財団の『人生の最期の迎え方に関する全国調査』2021年の調べによると、人生の最期を迎えたい場所として、58.8%が「自宅」次いで33.9%が「医療施設」と答えている。

日本では超高齢化社会の進行に伴い、死亡者数は増加を続け、これから2025年以降の多死社会到来において、「病院で死ねない時代」が訪れるとも言われている。そのような社会背景もあり、エイジング・イン・プレイス（Aging in Place:歳を取って身体的に衰えても、住み慣れた場所、住まい、環境で最後まで自分らしく暮らす）という概念がクローズアップされ、それを支えるための仕組み作りがなされている。実母、実兄の在宅での看取りは、訪問医療、訪問看護等を活用し、また私を含め義姉、姪、私の娘が看護職であり、お互いの仕事の日程を調整しつつ、在宅で看護できたことは、恵まれたケースなのかもしれない。

さて、少し暗い話となってしまいが、人生を前向きに考えるという意味でお許しいただきたい。「在宅死」を通して「最期を考えると？」「生きるとは？」について考えてみようと思う。

在宅死と病院死の現状

日経STYLE(2023)の記事によると、昔は在宅死が当たり前で、1951年の在宅死率は82.5%だった。1961年に国民皆保険制度がスタートし、少ない負担で入院治療が受けられるようになったこと、核家族化が進んだことで在宅死は減少し、徐々に病院死が増加していった。1977年には病院で死亡した人の割合が45.7%と在宅死率44.0%を初めて上回り、その後在宅死率は、激減し2005年と2006年には12.2%と過去最低を記録した。2004~15年まで在宅死率は12%台で横ばいだったが、病院で人工呼吸器、点滴、心電図のセンサーなど、たくさんの管につながれた“スパゲッティ症候群”のまま死を迎えることへの批判などから在宅死が見直され、2016年以降徐々に増加しているということである(図1)。

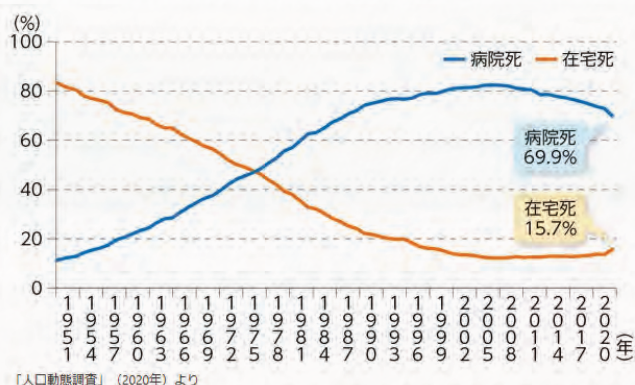


図1. 在宅死と病院死の年次推移 在宅死と病院死 それぞれのメリット、デメリットは？日本経済新聞より転載
<https://www.nikkei.com/nstyle-article/DGXZQOLM133GQ0T10C23A3000000/>
公開日 2023.3.20 アクセス日 2024.10.1

在宅における看取りの現実

在宅死に関する書籍は、近年多数出版されている。今回私が目を通した書籍の中で主な3冊を紹介する。

まず1冊目は、ジャーナリストの笹井恵理子が記した書籍『実録・家で死ぬ 在宅医療の理想と現実』は、著者が在宅



死にかかわる人々や終末医療の現場に足を運び、何年にもわたる密着取材で語られた様々な事例を取り上げている。著書では「家で死ぬ」にはどうすればいいのか、実際にはどのような最期を迎えることになり、家族は何を思っているのかを人々の実際の状況を記載することで、在宅医療の理想と現実を問いかけている。普通多くの在宅死関連の書籍では、まず最初に在宅での看取りの成功事例を取り上げていることが多い。しかし著者は第1章で取り上げているのが、「在宅死を支えた家族の本音」である。「自宅で死ぬのは簡単ではありません」と表紙で述べているように、システムが整ってきたとはいえ、介護者の負担、認知症がある場合など希望した場所で最期を迎えることはなかなか難しいのが現実のようだ。

2冊目は、聖路加国際病院で訪問看護に携わっていた押川真喜子の書籍『在宅で死ぬということ』は、訪問看護師として担当した在宅終末医療で経験した十の実例が取り上げられている。20歳の女性の「着られなかったウエディングドレス」の事例や「どうしても行きたかったディズニーランド」の17歳の女性の話など、在宅での納得いく最期を迎えた事例が記されている。しかし、事例の中にはすべてが納得いくものではなく、「在宅療養が必ずしもベストではなく在宅の限界があることも事実なのです」と押川も述べている。同じ看護職として在宅療養に向けての準備や意思決定支援の大変さが伝わってきた。色んな選択肢を考えることも大切なのではないだろうか。

最後に医師の中村明澄の書籍『納得できる最期のために「在宅死」という選択』では、暮らし慣れた自宅で穏やかで「納得できる最期」を迎えるために、条件1.本人や家族が、病気のどの段階かを理解する。条件2.「最後の過ごし方」をお任せしない等、11の条件を記している。中村は、「最期の時間の過ごし方には選択肢があるということ、どこで、どう過



ごしたいかは自分で決めることができる」と述べている。一人一人、それぞれのベストな逝き方があり、「納得できる最期」の在り方は一人一人違っていいという見解を示し、「逝き様=生き様」であり、人生の最期を考えることは残りの人生をどう生きるかを考えることだと述べている。私もそうであったように、健康で暮らしているときには、なかなか人生の最期の迎え方を考えるという思考には至りにくい。日々の時間を大切に考えるためには、人生のゴールを見ることも大切なのではないだろうか。

『逝き方を考える』ことは『生き方を考える』こと

人は生まれた瞬間から時間を刻み始め、最期に時間が止まることで人生を終える。今この1秒は元には戻らない。先に進むだけである。実母を看取った時に感じたことは、人生最期の場面では、神様でもなく、看取った家族でもなく、医師が自身の時計を見て「〇時〇分、ご臨終です」とその人の最期を告げる。そこでその人の人生の時間は止まる。一方、私たち助産師は出産の場面で児を取り上げ、誕生とともに出生時間を「〇時〇分出生です。おめでとうございます」と大きな声で告げる。神様でもなく、医師でもなく、立ち会っている夫でもなく、まさしく取り上げた助産師が、これから始まるその子の人生の時間の開始を告げるのである。そう考えると助産師という職責の重さをより一層感じる。今回身近な人たちの死という最期を見ることで、はじまりの大切さをより一層実感した。

書籍を通して感じたことは、希望した場所で最期を迎えることだけでなく、どう生きて、どう最期を迎えるか、そのプロセスを考えることが大切だということだ。こんなことは今さら言うまでもなく、当たり前のことかもしれないが、平凡に暮らしている時にはあまり考えることがないのも事実である。始まりと終わりの時間のスイッチは、他人に告げられるにしても、いかに生きていくのかは自分で決めることができる。あらためてゴールを見据えて今を大切に生きることを考えてみてはどうだろうか。立て続けに身近な人たちの死を経験し、どうしても死というゴールだけに目が行きがちだったが、これらの書籍は「生まれること」「死ぬこと」「納得いく最期」そして「どう生きるか」等、あと数年で定年を迎える私にこれからを考える機会を与えてくれた。この寄稿文を読まれた皆様も書籍を通して『逝き方を考える』こと、ひいては『生き方を考える』機会になれば幸いである。

私の「Geosymbiosis / 地球共生デザイン」 誕生に影響を与えてくれた本たち

摂南大学 理工学部 住環境デザイン学科 地球共生デザイン研究室 白鳥 武

幼少期に海外と日本の往復移住生活にあった筆者の息抜きに読んだ漫画に始まり、アイデンティティ・クライシスの典型例であった青年期も含め、その時々自分の人生における迷いや疑問に示唆に富んだ見方を「本」は与えてくれた。【地球共生デザイン】をライフワークとする今も発見を与え続けてくれている。思い出と共にその時々の本を一部紹介したい。

■日本文化の一つ「食」を通して 自然共生文化に気づかせてくれた本

今では海苔や寿司も大人気、和食の一つと認知されるが私の米国高校生時代1986年頃の海外ではマイナーで異質な扱いにあった。高校で食堂満杯に昼食を一斉にとる中、母親が茶目っ気で海苔を貼込めた黒丸おにぎりが、隅が破れた紙袋から皆が囲む長い卓上を転がり出した。「これはなんだ」と大騒ぎになってしまった。思春期に奇異な目で見られ、大切な日本食文化がここまで周知・高評価されると誰が想像できただろうか。個々の民族文化やアイデンティティというものを考えるきっかけが私の場合、この様に波乱と共にやってきた。そんなハプニング多き日常の息抜きが、日本食品店で予約し数ヶ月後やっと届く和書であり、当初は「漫画」であった。その「おにぎり事件」を新・真視点で今捉えられるのも、実はある漫画本のお蔭であった。

西洋文化に生活し日本の食文化を否定する意識を持ってしまった日本人女性が、箸を野蛮な道具だと卑下するエピソードでは、金属と違い舌を刺激せず、料理を妨げない木から生まれた素晴らしい道具と評価する主人公に諭される。いささか日本鼯鼠の著者目線ではあるが、日本文化の大切な一つである「食」にまつわるエピソード群から、日本文化のいろはや新鮮な側面を教わる好テキストでもあった。母が懐石料理の師をしていたことや、父が食通であることも幸いし、海外にいながらも続けられていた「和食や作法は日本人としての日常の大切なコト・モノ」だと改めて気づかされた。四季折々の食材を理解しその愛し方に、自然と共に生きる精神性と知恵や季節感、万物への尊重意識を育む「自然共生文化の重要性」を源とする私のデザイン指針の一つに繋がって行った。

/雁屋 哲 (著), 花咲 アキラ (イラスト)
「美味しんぼ」小学館

■美しいMax Klingerのエッチング美術作品集が 影響した学生建築デザイン課題の思い出

米国南部の工科大学で建築デザインを学んでいた頃、スタジオでは個性豊かで多様な人種の非常勤講師陣に、これまた多国籍な学生が割り振られる中、その課題や受けた講評に悩んでは図書館で考えを巡らせた。当時ほどの棚の何番目にどの本があるか大方理解していた。自分に合うデザイン哲学や手法を持った教員なら解り易いのだが、時に日本人が私独りの中、文化的違いすら理解しない講師だと話が行き詰る。表現したいコンセプトが伝えられないもどかしさを抱え、気晴らしに開いたのがドイツ人芸術家Max Klingerの白黒の陰影豊かな美しいエッチング集であった。物語の幻想的な挿絵が多く、金属版を刻んで黒インクで描く手法の世界に、白黒グラデーションだけの方が色を使った絵画よりも鮮やかに感じた。深夜の恐ろしく静かな、しかし美しい漆黒暗闇の中にたたずむ人物の「生身や命の存在感」が僅かな光で伝わる作品や、複雑な感情を一瞬にして体感させる身体の形態表現と画面構成力に圧倒された。当時の課題は、学校建築デザインで真の人間教育とはどう在るべきかに悩んでいた。Klingerに影響され過ぎて、鉛筆濃淡だけの白黒画で表現し、静寂な暗闇を内包した空間で、僅かな光の中過ぐす孤高な人間のための学校建築、講評者曰く「修道僧のための学校か?」と言われるような厳しい精神世界の中で悟りを開く学校建築デザインに辿り着いてしまった(図1,2)。特にトドメを刺した質問が「楽しく皆で集まりたい時に使う空間はどこか?」で、見渡したら一つも無かったのである。しかし、昨今多い衛生的だが無味無臭の「希薄な人間関係」では無く、もっと出会えたご縁を大切にしたい、匂いがするほど「生々しい相互の存在を感じる場」として、多人種がお互いの考えを深める共生と学びの舎としては良いと、その時は反論できなかったが今更ながら苦笑いでそのデザインを思い返している。

/Hans Wolfgang Singer「Max Klinger's Etchings,
Engravings and Lithographs」Alan Wofsy Fine Arts

■ 古本市で出会った「異国で活躍した日本人画家」の 先駆的なアイデンティティデザイン

大学4年目に仏国パリで一年学ぶプログラムに参加した。日米しか比較対象が無かった私の色々なモノやコトの比較論が、仏が入り、より丁寧に明確化した。特にアジア文化に対する理解と興味の深さは米国よりも何歩もこの国は先に行っていると当時感じた。また日本の美意識を理解し正當に評価できる一方で、自国文化を最高と自慢し終始疑わない人々にも多々出会った。日本を離れる程、日本文化に強く惹かれる自分にも気づけた。果たして、「我はどう在るべきか」。ライフワークとしてのデザインの方向性にも悩み、パリ市内の散歩時に、思いがけなかった形で「日本人先駆者」に出会えたのである。セーヌ川沿いでは週末恒例の古本市が開催されており、何千と並ぶ品々の合間に、ふと目に留まったのが、何とも滑稽な、しかし堂々とした威風でオカッパ頭に黒丸メガネ、ちょび髭の真顔に三毛猫を片手に写っているアジア系人物のポストカードである。何故か心惹かれるその一枚を貧乏生活ながら購入しよくよく見ると、それは日本人画家Leonard Foujitaこと藤田嗣治の肖像写真であった(しかも三毛は日本猫)。この一枚がきっかけで彼の本を探すと、西洋画に日本画等の技法も取り入れた独特の乳白色の肌・裸婦像を描くことで有名であると知る。自己民族性をやはり彼も作品内に模索したのではないか。白は日本文化にとって神聖な意味を持つ。また白を中心とした絵画を美しく纏めることはとても難しい。余白という日本語があるが、デザイン指導でも使う中、主役の描写・造形物や建築空間だけでなくその周囲の余白空間をきちんと見つめられるにはかなりの鍛錬が必要である。それらを掌握しつつ、しかし先駆的作品が、異国の地で切り込んでいった先駆的な彼の在り方と共に刺激となった。

同写真を表紙とした本に後に出会い、藤田自身でデザイン・手作りされた品々が掲載されていた。自分が生きる中で発見し、試行錯誤してモノづくりを洗練させていく、という当たり前のことが、便利になり過ぎた上に虚像の中に生きる時間が多い昨今、増々失われつつある。我々の生き様はデザインに現れるものであると学生に口角泡を飛ばす所以である。

/林洋子「藤田嗣治 手仕事の家」 集英社新書

「地球と共に生きる」ことや「母なる大地(Mother Earth)」を強く意識するきっかけは、バブル崩壊後に大都会東京のゼネコン設計部に入社し数年後、新入社員数が激減で忙殺される日々にあったと記憶している。設計に優れた上司の下で多くの学びが得られ充実するも、気になる自然環境や社会のいろいろな課題が置き去りになり易い「経済活動の為の生業」に違和感が積もり、

「自分が理想とする生き方の中でデザインがしたい」と考えたときに出会った一冊。プエブロ先住民の古老らと過ごした著者がそこでの言葉や悟りを詩で、別の著名画家が挿絵で表現した作品集としてまとめたもの。本が二分され、英語原文と日本語訳の両方が掲載されている。その中にある詩の一編、この本の日本語タイトルになっている詩「今日は死ぬのにもってこいの日」にある「すべての生きているものが私と調和している*」という一行に深く感銘を受けた(※和訳は英語原文から別に筆者自作)。企業理念とは違う、こういう生き方の中で生まれる建築や生活デザインはどう在るべきか、経済や人間のためだけに持続可能なモノづくりや社会ではなく、「全ての地球上の生命体との調和的共生を促進する概念の上に成り立つものでないといけないのではないか」と気づかせてくれた。現在研究の軸軸としている「地球上の全生命体との調和的共生」を促すデザイン、それを「Geosymbiosis/地球共生デザイン」と提唱し今に至るが、決断に迷いがある時にはこの本を何度でも読み返す。そしていつかこの詩の境地に辿り着きたいと願って止まない。

/ナンシー・ウッド(著)、フランク・ハウエル(画)、
金関寿夫(翻訳)

「今日は死ぬのにもってこいの日」めるくまーる

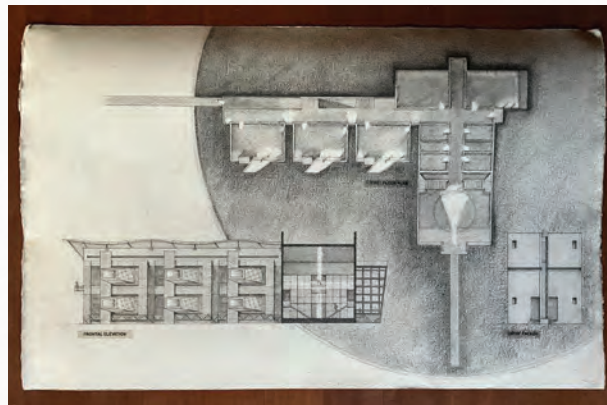


図1:筆者学部3年生時「学校建築」デザイン課題作品
1F平面配置図、断立面図

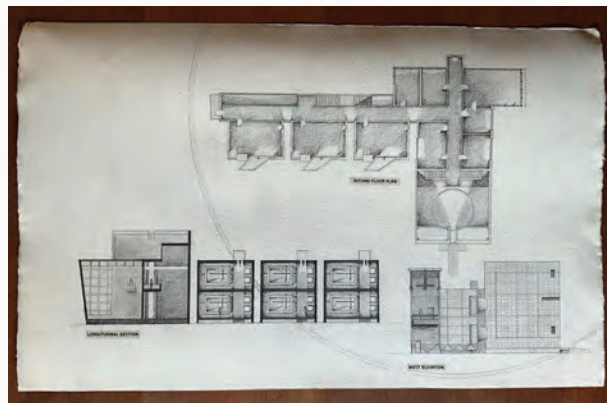


図2:「学校建築」デザイン課題作品
2F平面配置図、断立面図

教員と図書館学生サポーターが選ぶ

推薦図書

Recommended books

摂南大学図書館では、読書の楽しみを発見してもらうため、図書館運営委員会のメンバーである教員と、図書館サポーターの学生が、さまざまなジャンルから皆さんにお薦めする1冊を選び出し、ここでご紹介させていただきました。これらの本からお気に入りを見つけていただければ幸いです。

国際学部 講師 小都 晶子

教員

中国農村の現在

田原 史起〔著〕 中公新書 2024

中国は急速に豊かになり、国際社会で存在感を高めています。近年は観光客の増加によって日本で中国人とふれあう機会も増えました。その一方で、中国の広大な農村についてなにかイメージはあるでしょうか。本書は、著者が長年中国の農村を歩き、出会った人びとをとおしてみた中国農村の現在を紹介します。ときおり方言に翻訳される農民のことばもあたたかく、議論は人びとの暮らしから国家の統治にまでおよびます。中国社会を理解するための入り口に最適な一冊です。近くて遠い中国農村の姿にぜひ思いをはせてください。



看護学部 准教授 但馬 まり子

教員

あした死ぬ幸福の王子 ストーリーで学ぶ「ハイデガー哲学」

飲茶〔著〕 ダイヤモンド社 2024

世界的名著『存在と時間』を著したマルティン・ハイデガーの哲学をストーリー仕立てで、わかりやすく解説した小説です。物語は黒いサソリに刺された王子が、「死」を自覚し、自暴自棄になっている時に出会った老人から「自分の死期を知らされるなんて、おまえはとてつもなく幸福なやつだな」と声をかけられたことから、王子の学びが始まります。死の先駆的覚悟(死を意識してはじめて、後悔しない生き方が見えてくる)というハイデガーの教えをわかりやすい言葉で説明し、何気ない日々の時間が大切だと考える機会を与えてくれる書です。



経済学部 准教授 名方 佳寿子

教員

医者の父が息子に継る 人生の扉をひらく鍵

中山 裕次郎〔著〕 あさま社 2024

外科医であり作家である著者が大学受験の失敗、大学生活での人間関係の挫折、医師国家試験、つらい研修医の日々等の様々な経験から得られた「人との接し方」、「迷った時」、「仕事への向き合い方」、「運・成功・努力・チャンスとは?」、「成長の鍵」に対する考え方を説明している。仕事柄「死」に何度も直面し「人生の締め切り」を日々痛感しているため、後悔のないよう心の底からやりたいことをやって欲しいとつづっている。これから社会に出る学生が直面する問題・壁への対処法がかかれていますので是非読んで欲しいと思います。



全学教育機構 助教 鎌田 祥輝

教員

『ミニマル料理:最小限の材料で最大の おいしさを手に入れる現代のレシピ85』

稲田 俊輔〔著〕 柴田書店 2023

料理本にもかかわらず、びっしりと文字が書かれた赤色の高帯で料理写真を覆い隠す、印象的な書影。最低限の食材とシンプルな調理法で構成されるミニマルなレシピは、外食や中食とは異なるベクトルのおいしさを有する「かつて普通だった家庭料理」に接近せんとする著者の実験成果である。レシピはグラム表記で再現性が高いので、料理初心者でもレシピ通りに調理することで、本書の志向性を味覚で感得できるだろう。また、ミニマルだからこそ一工夫加えて展開させる余地がある。自身が理想とするおいしい料理を探究する糸口にもなる一冊。



理工学部 教授 伊藤 譲

教員

「人物で知る 日本の国土史」

緒方 秀樹〔著〕 オーム社 2008

土木の目的は橋梁、道路や上下水道などの社会基盤を建設、維持管理することで社会を豊かにすることである。この本では、古代から近代までの日本の土木技術の歴史を、人物に視点を注ぎ記述している。歴史を通じて、為政者だけでなく、日本史で知っている有名な僧侶や武士の知られていない活動、明治期などの高度な精神性を有する技術者や職人の献身的な努力のおかげで豊かな国土の基盤が形づくられてきたことなどが解説されている。本書は人物一人につき数ページで、年表、イラストや写真を多数使い書かれているので、短時間で人物とその業績を知ることができる。



薬学部 教授 吉岡 靖啓

教員

『百万ドルをとり返せ!』

ジェフリー・アーチャー〔著〕

永井 淳〔翻訳〕 新潮文庫 2011

最も好きな小説家のデビュー作であり、私が小説を本格的に読み始めるきっかけとなった1冊です。大物詐欺師の策略により、架空の石油開発への投資話に騙され、合計百万ドルを巻きあげられて無一文になった四人の男たちが、数学教授や画商など、それぞれの職業の専門性を生かしたプランを持ち寄り、大物詐欺師から「1ペニーも多くな、1ペニーも少なくな、相手に気づかれることなくお金を取り戻そうとする物語です。最初から最後までワクワクする展開が連続し、ページをめくる手が止まりませんでした。是非、読んでみて下さい。



法学部 准教授 片岡 雅世

教員

『大学生生活と法学』

江藤祥平ほか[著] 有斐閣 2022

本書は、「法学入門書です」から始まる「はしがき」ですが、決して法学部生のためだけのものではありません。第2部(法学への道標)こそ、いわゆる法学入門書的な内容となっていますが、これは全体の約10%しかなく、残りの第1部(あなたと法学が出会うシーン)では、大学で学ぶ意義や飲酒の強要、契約の意味、ネット上の誹謗中傷、性被害、働く際のルール、著作権侵害など大学生が直面する様々な問題について考えるきっかけを与えてくれます。法はいかに身近で大切な存在であるか。本書はそれを知る良書といえるでしょう。



現代社会学部 准教授 山本 圭三

教員

『油断!』

堺屋 太一[著] 東京書籍 2016

本書は「石油供給が一切途絶えたら日本社会はどうか」というテーマのシミュレーション小説である。車が動かせなくなる、燃料が不足する事などは容易に想像されるだろうが、影響はそれだけに留まらない。様々な社会機能の不全がおこり、人びとの社会生活は破綻し、混乱・暴動が生じ、凍死・餓死といった犠牲者がどんどん生まれ…我々の想像をはるかに超える事態になりえることが本書で描かれる。本書は50年近く前の作品だが、今読んでも社会の色々な面について考える契機を与えてくれる。学生諸君にも是非読んでもらいたい。



農学部 教授 佐野 修司

教員

『日本農業への正しい絶望法』

神門 善久[著] 新潮社 2012

私も含めて「自給率の向上」や「農業の振興」を願う人々にとってかなり挑発的なタイトルの書籍であるが、現代の日本の農業が抱えている問題点を現場視点で理解できる一冊で、10年近く前の出版ながら現代でも大いに参考になる。それどころか、著者の批判する「宣伝や演出で誤魔化すハリボテ農業」について「スマート農業」や「IT」といったキーワードが増えている実態など、むしろ問題が深刻化しているようにも感じるのは私だけだろうか?日本で食生活を送られる方には、学部や専門に関わらず読んでみてほしい。



経営学部 准教授 畠山 俊宏

教員

『多国籍企業論』

スティブン・ハイマー[著]

宮崎義一[編訳] 岩波書店 1979

本書は、多国籍企業が誕生するメカニズムの解明に初めて取り組んだものである。現在に続く多国籍企業論・国際経営論の議論は全てこの著作から始まっている。「なぜ企業は海外直接投資を行い、多国籍企業になるのか」という課題について、「優位性」という概念を用いて海外直接投資が行われる論理を説明した。

現在では企業の海外進出が当たり前となり、「なぜ多国籍企業が生まれるのか」という課題を意識することは少なくなった。しかしながら、多国籍企業や国際経営を考えるうえでは本書が示した「優位性」の重要性は変わっていない。



国際学部 国際学科 芝野 心琴

サポーター

『さよなら、灰色の世界』

丸井 とまと[著] スターツ出版株式会社 2023

「自分と向き合うこと」は簡単ようで難しいということを考えさせられる作品です。主人公である高校一年生の楓はある日、視界が灰色になる“灰色異常(グレイエラ)”という病にかかり、人の周りにその人を表したような単色のオーラが見えるようになります。この病と環境、友人関係が変わったことで彼女の性格にも変化があり、それらの変化を楽しむ作品となっています。高校生特有の陰口であったり、いじめであったりもあるもののそれらを経て、団結し友情も恋愛も生まれる作品で、甘酸っぱい青春と思春期の心境の変化を見て少しもどかしくも、懐かしさを感じられます。



農学部 食品栄養学科 川邊 瑠貴

サポーター

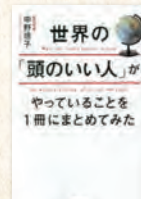
世界の「頭のいい人」がやっていることを1冊にまとめてみた

中野信子[著] アスコム 2021

本書は、世界の頭のいい人がどんな人で、心がけていること、スケジュールの立て方、自己分析と自己改良の仕方を紹介しています。また、世界の「頭のいい人」に近づくための簡単なコツやテクニックも紹介しています。

この本を読むことで、やらないことリストを作るなど世界の頭のいい人がやっていることは、意外と皆ができることだと学べます。そこに地頭の良さは関係なく、本当にやるかやらないかというだけだと学べます。

世界でも通用するような頭のいい人の真似をしたい方や自分をより活かし、輝かせていくための知恵を知りたい方にもオススメです。



理工学部 生命科学科 山本 真利愛

サポーター

『天久鷹央の推理カルテ』

知念 実希人[著] 新潮文庫nex 2014

『天久鷹央の推理カルテ』は、医師である知念実希人さんが描く医療ミステリーです。病院の統括診断部を舞台に、天才女医・天久鷹央と助手の小鳥遊優が、通常の診察では解明できない奇妙な症例や謎を解き明かしていきます。シリーズ第1作では、「青いバラ」が患者の体内に現れるという謎めいた事件が発生。医学的知識を駆使しつつ、患者や周囲の人々とのドラマも丁寧に描かれます。リアリティある設定と巧みな推理、鷹央と優の掛け合いが物語を引き立て、テンポ良く楽しめます。医師だからこそ描ける深みのある世界観をぜひ体験してください!



農学部 食農ビジネス学科 永井 夏鈴

サポーター

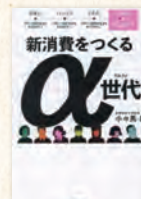
『新消費をつくるα世代』

小々馬 敦[著] 株式会社日経BP 2024

α世代とは2010年以降に誕生した人々の事で、Z世代と並ぶ若年層の世代を指します。これからの未来を担う彼らはどのような消費行動を行い、彼らの消費に対して企業はどのようなマーケティングをするべきなのか。

デジタルネイティブ、SNSネイティブと称されるZ世代とα世代ですが、購買までの流れや考え方には大きな違いがあります。

私自身はZ世代に分類される人間ですが、α世代の価値観には驚かされる点が多くありました。マーケティングを学びたい人だけでなく、若い世代の価値観を知りたい人にもお勧めします。



薬学部 薬学科 新田 菜月

サポーター

『不思議な薬草箱』

西村 佑子[著] 山と溪谷社 2014

『不思議な薬草箱』は、魔女やグリム童話、聖書などに登場する薬草や植物をテーマにしたものです。古代から伝わる物語に残されている薬草が持つとされた不思議な力や歴史的背景について触れ、物語に登場する植物がどのようにして人々の生活や信仰と結びついてきたかを探ることができます。知識とロマンが詰まった一冊で、植物学や文化史、民俗学のみならず薬学に興味のある方にもおすすめしたいです。



理工学部 機械工学科 白井 海智

サポーター

『博士の愛した数式』

小川 洋子[著] 新潮社 2006

「ぼくの記憶は80分しかもたない」もしそれが何十年と続いたならば、いったい何を話せばよいのでしょうか?数学者であった「博士」にとって、それは普遍の真理である「数学」でした。そんな博士と、派遣家政婦の「私」、その息子「ルート」がおりなす、温かくも儚い、数奇な物語となっています。第一回本屋大賞にも選ばれたこの名作を、一度読んでみてはいかがでしょうか。私たちの身近にある数字が、特別なものに見えてくるかもしれません。



枚方分館ニュース



枚方分館は、薬学・看護学・農学に関する専門図書を中心に揃え、学生の学修を支援しています。

学生のみなさんには、学修だけでなく、読書に親しんでもらえるよう『読書ラリー YOMOCA』『テーマ別特集展示』『選書フェア』などを企画しています。また、本と図書館が好きな学生が集まった、枚方キャンパス図書館学生サポーターが発足3年目を迎え、2024年度も自分の推薦する本のすばらしさをプレゼンで競い合う全国大学ビブリオバトルのブロック予選の開催や、学祭で展示を行うなど活動も活発化。読書が好きな学生は是非、図書館学生サポーターに参加してみてください。

読書ラリー YOMOCA (ヨモカ)

YOMOCAとは本を読んだり、書評やPOPを書くことでポイントをためるゲームです。参加すると『本を読む』『文書を書く』という機会が出来ます。

『本を読む』と、ネットでは入手できない本から得られる情報を入手できます。また本を読むことで会話力や文章力が養われます。

『文章を書く』については、本を読んで、ブックレビュー(書評)を書くことにより、論理的思考力や表現力など自己アピール能力が向上できます。専門の図書や小説を読んでチャレンジしてみてください。

<参加方法>

読書ラリーの申込書をカウンターまで提出してください。

参加者にはポイントカードを配付します。図書・雑誌を借りて期限内に返却する、希望図書の申込書を提出、ブックレビュー(書評)を提出するというミッションにより、スタンプを押します。スタンプが全部貯まるとクリアファイルなどのYOMOCAオリジナルグッズがもらえるので、励みになります。



特集展示

専門分野に関するテーマや話題のテーマなど図書を選書して展示しています。

今年度は、学而前号105号に掲載された『学而:学長おすすめ本』や、実は薬学部以外の学生にもぜひ読んでほしい『薬学部生に役立つ本:教員選書』などの展示を行いました。是非、展示コーナーの図書を手に取ってみてください。

- 学而
- ボランティアをもっと身近に
- 今日から始める AI
- 映画原作 2024
- 話し上手は聞き上手
- 本屋大賞 2024
- 摂大文化大賞 2024
- なにげに文士劇公演『放課後』
- 薬学部生に役立つ本:教員選書
- SDGs



図書館学生サポーター活動

図書館には本と図書館が大好きな学生たちが、寝屋川、枚方の各キャンパスで「図書館学生サポーター」として活動しています。彼らの様々な活動をお知らせします。

ビブリオバトル

ビブリオバトルとは「書評合戦」のことです。図書館学生サポーターは「全国大学ビブリオバトル」のブロック予選を例年寝屋川、枚方の各キャンパスで開催しています。勝者はブロック決戦を経て全国大会へと駒を進めます。

寝屋川キャンパスは投票の結果、経済学部1年生の山崎湖子さんが紹介した『ポッコちゃん(星新一著)』が選ばれました。



右端が山崎さん

マイ・フェイバリット・ブックス

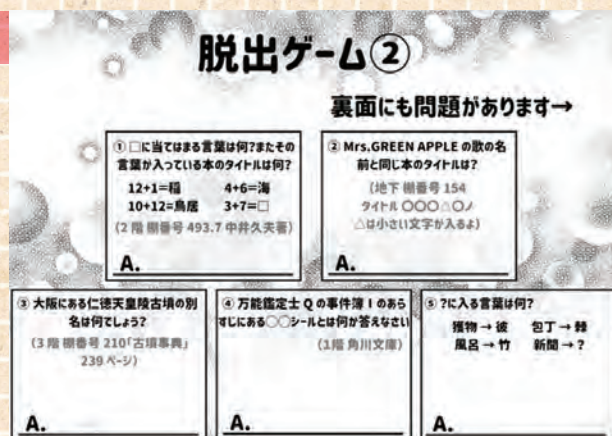


マイ・フェイバリット・ブックスとは、参加者が感動や影響を受けた本を持ち寄ってそれらを紹介し、語り合う読書会のひとつです。定期的開催され、熱心なサポーターは複数回参加してくれています。発表者はお勧め本のポイントを熱く語り、それについて質問や感想を交換して思いを共有します。皆さんもぜひご参加ください!

図書館謎解き脱出ゲーム

摂大祭で図書館本館の地上3階~地下1階フロアをフルに活用し、本や図書館にちなんだクイズを制限時間内に解き明かす「謎解き脱出ゲーム」を開催しました。

2日間実施し、地域市民の方々をはじめ多くの方々が参加してくれました。参加者は図書館内のあちこちに配置されたヒントを手掛かりにクイズを解いていきます。これを機に参加者に本や図書館のことをより知っていただけるようにイベントを開催できただけでなく、なによりこのイベントを企画した学生サポーター自身が楽しんで取り組んでいました。



当日対応したサポーターたち

学園祭で作品等を展示

枚方分館のサポーターは昨年11月4日(月・祝)に開催された摂友祭(学園祭)で、自分たちのオリジナル小説とその登場人物のイラストの色紙やしおり、創作絵本などを枚方キャンパスのラーニングコモンズで展示しました。

来場者がどれくらい立ち寄ってくれるか心配でしたが、サポーターたちの熱心な勧誘で多くの方が興味を持ってご覧いただいたようです。自作しおりの配布も好評で、充実した学園祭となりました。

2024年度 図書館学生利用者アンケート結果

図書館では、皆様の利用状況やご意見、ご要望などをお伺いし、図書館サービスの向上および図書館の利用環境改善の参考資料とするため、毎年同じ時期に利用者アンケートを実施しています。2024年度は11月1日(金)～12月26日(木)までの間、館内でのアンケート用紙配布とWEB回答により実施しました。

この度結果がまとまりましたので主な項目について結果をお知らせします。



1.回答者数

73人 【寝屋川本館】51人 【枚方分館】22人

2.アンケート集計

◆ 図書館全般について

1

図書館をどの程度利用しますか。

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
週に3日以上	10	19.6 %	5	22.7 %
週に1~2日	28	54.9 %	6	27.3 %
月に1~2日	12	23.5 %	5	22.7 %
試験期間のみ	0	0.0 %	5	22.7 %
ほぼ利用しない	1	2.0 %	0	0.0 %
その他	0	0.0 %	1	4.6 %
総 計	51	100.0 %	22	100.0 %

2

図書館の利用目的は何ですか。
(複数回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
自学、自習	37	31.1 %	19	45.2 %
グループ学習	1	0.8 %	1	2.4 %
本を読む	22	18.5 %	8	19.1 %
新聞・雑誌を読む	7	5.9 %	2	4.8 %
DVD等鑑賞	2	1.7 %	0	0.0 %
ゼミ、授業	8	6.7 %	0	0.0 %
図書貸出・返却	18	15.1 %	9	21.4 %
休憩	24	20.2 %	3	7.1 %
計	119	100.0 %	42	100.0 %

3

図書館の環境について
どう思いますか

良い:3点、普通:2点、
悪い:1点として平均点を算出

	寝屋川本館		枚方分館	
	2024	2023	2024	2023
資料の配置	2.6	2.4	2.6	2.5
閲覧席数	2.7	2.5	2.7	2.5
案内表示	2.6	2.4	2.8	2.4
静寂性	2.7	2.4	2.4	2.4
視聴覚設備	2.4	2.3	2.3	2.5
パソコン設備	2.6	2.3	2.4	2.4
ラーニング・コモンズ(本館のみ)	2.5	2.4	—	—
環境全般	2.7	2.4	2.6	2.5
開館日数・開館時間	2.6	2.3	2.3	2.3
貸出冊数	2.4	2.6	2.3	2.5
貸出期間	2.6	2.2	2.5	2.2

4

図書館内のどのような
エリアの充実を希望し
ますか。
(複数回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
本を静かに読む	16	19.5 %	7	25.0 %
一人で学習する	38	46.4 %	10	35.7 %
学習用個室	15	18.3 %	5	17.9 %
グループ学習室	5	6.1 %	1	3.6 %
DVD視聴ブース	0	0.0 %	2	7.1 %
情報検索コーナー	7	8.5 %	2	7.1 %
その他	1	1.2 %	1	3.6 %
計	82	100.0 %	28	100.0 %

5

図書館資料のどれを
充実すべきだと思いますか。
(3つまで回答可)



	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
教養図書	24	21.6 %	11	27.5 %
専門図書	31	28.0 %	11	27.5 %
参考図書	12	10.8 %	8	20.0 %
一般雑誌	6	5.4 %	3	7.5 %
新聞	1	0.9 %	1	2.5 %
学術雑誌	7	6.3 %	0	0.0 %
データベース	4	3.6 %	0	0.0 %
視聴覚	4	3.6 %	0	0.0 %
資格取得	10	9.0 %	3	7.5 %
電子ジャーナル	2	1.8 %	0	0.0 %
外国学術雑誌	2	1.8 %	0	0.0 %
電子ブック	6	5.4 %	2	5.0 %
その他	2	1.8 %	1	2.5 %
計	111	100.0 %	40	100.0 %

6

図書館のサービス内容
やお知らせを主に何で
知りますか。
(3つまで回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
ポスター	28	41.8 %	8	36.4 %
ホームページ	21	31.3 %	5	22.7 %
パンフレット	10	14.9 %	3	13.7 %
デジタルサイネージ	5	7.5 %	0	0.0 %
スタッフ	2	3.0 %	5	22.7 %
その他	1	1.5 %	1	4.5 %
計	67	100.0 %	22	100.0 %

◆ 電子書籍の利用について

7

どんな電子書籍を読ん
でみたいと思いますか。
(複数回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
小説	25	25.5 %	11	26.9 %
漫画	19	19.4 %	8	19.5 %
ノンフィクション	5	5.1 %	0	0.0 %
ビジネス書	10	10.2 %	2	4.9 %
実用書	7	7.2 %	6	14.6 %
学術図書	15	15.3 %	6	14.6 %
参考図書	6	6.1 %	5	12.2 %
雑誌	10	10.2 %	3	7.3 %
その他	1	1.0 %	0	0.0 %
計	98	100.0 %	41	100.0 %

8

今後、図書館では紙の
図書と電子書籍のどち
らを利用したいですか。

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
紙の書籍	23	45.1 %	11	50.0 %
電子書籍	4	7.9 %	1	4.5 %
両方を利用したい	20	39.2 %	4	18.2 %
わからない	2	3.9 %	4	18.2 %
(空白)	2	3.9 %	2	9.1 %
計	51	100.0 %	22	100.0 %

図書館利用統計

図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。
ここでは、2024年度（12月末まで）の利用状況と、学部別貸出冊数等について報告します。

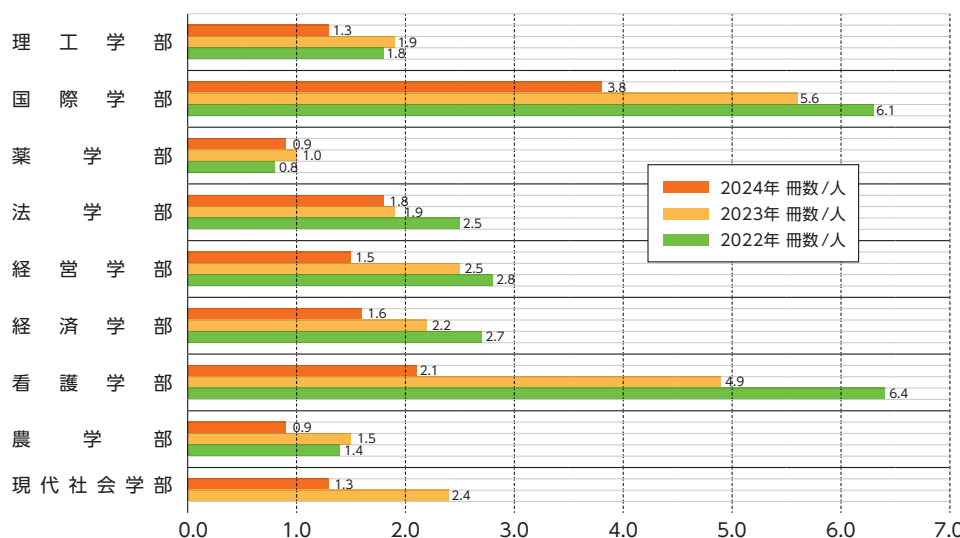
図書館利用状況（2024年度〔12月末まで〕 ※ 2023・2022年度は年間）

区分		本館	分館	計
開館日数	2024年度	213	221	—
	2023年度	279	291	—
	2022年度	282	291	—
入館者数	2024年度	76,622	20,923	97,545
	2023年度	97,903	20,149	118,052
	2022年度	120,417	15,967	136,384
貸出者数	2024年度	10,039	2,441	12,480
	2023年度	13,234	3,578	16,812
	2022年度	12,939	3,126	16,065
貸出冊数	2024年度	16,634	4,604	21,238
	2023年度	22,165	7,137	29,302
	2022年度	23,049	6,872	29,921

2023年度は、分館の入館者数を除き、両館とも入館者数・貸出者数・貸出冊数が減少しました。キャンパス内の施設の新設が影響したものと思われます。



学部別 1 人当たり貸出冊数（2024年度〔12月末まで〕 ※ 2023・2022年度は年間）



貸出の状況は学部によってかなり差があり、国際学部や看護学部の貸出が目立ちます。
図書館では学生の希望図書購入制度がありますので、ぜひ利用してください。



（冊） * 対象：学部生・卒研生

貸出トップ 10（2024年度〔12月末まで〕）

順位	タイトル / 著者 / 出版社	貸出回数
1	成瀬は天下を取りにいづく / 宮島未奈著 . - 新潮社, 2023.	27
2	変な家 / 雨穴著 . - 飛鳥新社, 2021.	18
3	11の間取り図 / 雨穴著 . - 飛鳥新社, 2023. - (変な家 / 雨穴著 ; 2).	17
4	成瀬は信じた道をいく / 宮島未奈著 . - 新潮社, 2024.	16
4	星を編む / 風良ゆう著 . - 講談社, 2023.	15
6	黄色い家 : sisters in yellow / 川上未映子著 . - 中央公論新社, 2023.	14
7	あなたが誰かを殺した / 東野圭吾著 . - 講談社, 2023.	14
7	ある閉ざされた雪の山荘で / 東野圭吾 [著] . - 講談社, 1996. - (講談社文庫 ; [ひ 17-12]).	14
9	変な絵 / 雨穴著 . - 双葉社, 2022.	14
10	六人の嘘つきな大学生 / 浅倉秋成著 . - KADOKAWA, 2021.	14

※資格・就職・TOEIC関連本、リーディングラウンジ本は除く

2024年本屋大賞受賞作品が今年も1位にランクイン。また過去に大賞に何度もノミネートされた雨穴さんの作品が3冊もランクインしたことが特徴的です。例年、本屋大賞およびノミネート作品は貸出上位にランクインしています。



2023年度 図書館入退館者調査

1. 身分別入館者数（延べ人数）

- 入館者に占める学生比率：本館 = 93 %、分館 = 92 %
- 1日の平均入館者数：本館 = 343 人、分館 = 38 人

※寝屋川と枚方キャンパスの学生数比（7:3）から見て分館の学生入館者数が少ない。

本 館

身 分	入館者数(延べ) [A]	比率
学 生	89,088	93 %
教 員	3,805	4 %
職 員	2,779	3 %
合 計	95,672	100 %

分 館

身 分	入館者数(延べ) [A]	比率
学 生	17,975	92 %
教 員	1,293	5 %
職 員	408	3 %
合 計	19,676	100 %

2. 身分別入館者数（実人数）

- 入館学生 1 人の平均入館回数：本館 = 15.6 回、分館 = 10.8 回
- 在籍学生のうち図書館に入館したことがある比率：本館 = 81 %、分館 = 54 %

本 館

身 分	入館者数(実) [B]	[A]÷[B]	在籍者数 [C]	[B]÷[C]
学 生	5,723	15.6	7,036	81 %
教 員	277	13.7	—	—
職 員	120	23.2	—	—
合 計	6,120	15.6	—	—

分 館

身 分	入館者数(実) [B]	[A]÷[B]	在籍者数 [C]	[B]÷[C]
学 生	1,668	10.8	3,082	54 %
教 員	128	10.1	—	—
職 員	30	13.6	—	—
合 計	1,826	10.8	—	—

3. 学生学部別入館者数（延べ人数）

- 最も入館者数が多い学部：本館 = 理工学部、分館 = 薬学部
- 最も入館者数が少ない学部：本館 = 現代社会学部、分館 = 看護学部

本 館

学部名	入館者数(延べ)	比率
法学部	15,482	17 %
国際学部	15,206	17 %
経済学部	16,363	19 %
経営学部	14,255	16 %
理工学部	25,138	28 %
現代社会学部	2,502	3 %
薬・看護・農学部	142	0 %
合 計	89,088	100 %

分 館

学部名	入館者数(延べ)	比率
薬学部	11,327	63 %
看護学部	2,746	16 %
農学部	3,859	21 %
理工経営学部等	43	0 %
合 計	17,975	100 %

4. 学生学部別入館者数（実人数）

- 最も入館比率が高い学部：本館 = 現代社会学部、分館 = 看護学部
- 最も入館比率が低い学部：本館 = 理工学部、分館 = 農学部

本 館

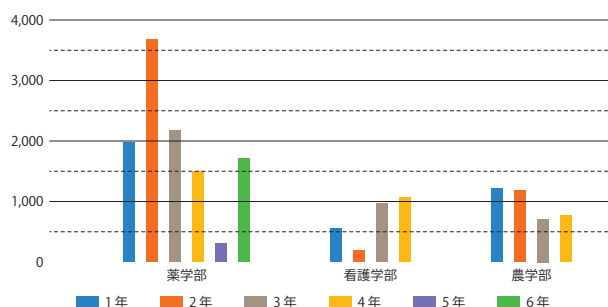
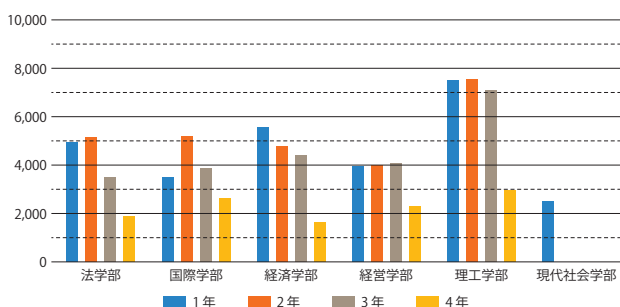
学部名	入館者数(実) [D]	在籍者数 [E]	[D]÷[E]
法学部	932	1,135	82 %
国際学部	865	928	93 %
経済学部	953	1,152	83 %
経営学部	999	1,214	82 %
理工学部	1,638	2,315	71 %
現代社会学部	287	292	98 %
合計	5,674	7,036	81 %

分 館

学部名	入館者数(実) [D]	在籍者数 [E]	[D]÷[E]
薬学部	702	1,345	52 %
看護学部	292	430	68 %
農学部	657	1,307	50 %
合計	1,651	3,082	54 %

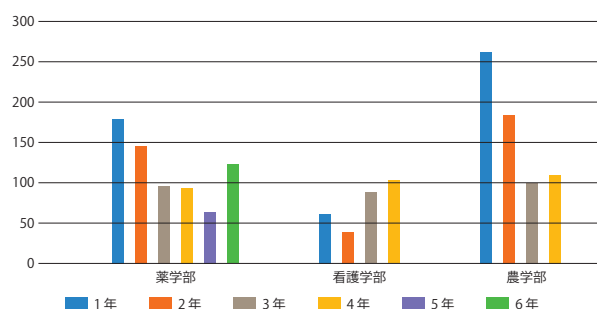
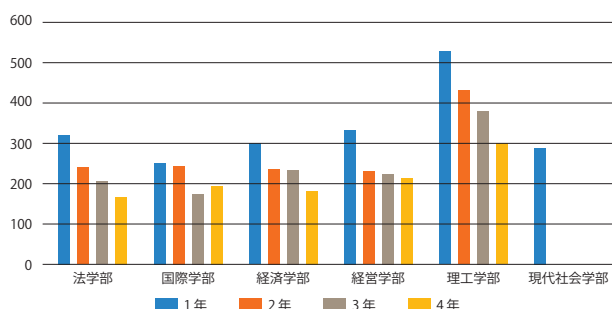
5. 学生学部・学年別入館者数（延べ人数）

- 前年度までと傾向が変化し、2年次以降の利用の増加がみられる。



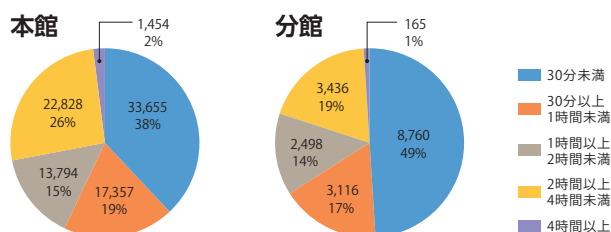
6. 学生学部・学年別入館者数（実人数）

- 看護学部を除きどの学部も1年次が多く、その後減少していく傾向が見られる。

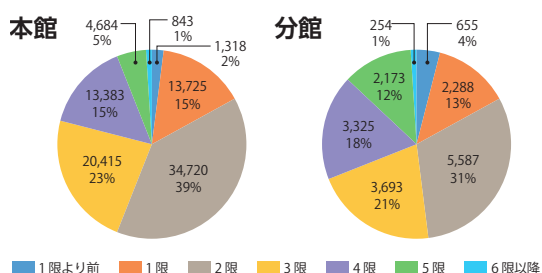


7. 学生利用滞在時間数（延べ人数）

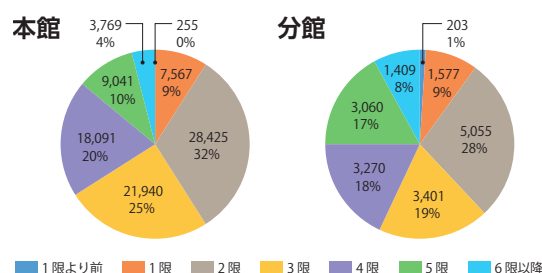
- 本館・分館ともに1時間未満の滞在が大半で、特に分館は約半数が30分未満の滞在である。



8. 入館時間帯比率（延べ人数）



9. 退館時間帯比率（延べ人数）



10. 学生入館者図書貸出比率（延べ人数）

- 本館:入館回数に対して学部別で13~33%、平均20%の貸出比率。
- 分館:入館回数に対して学部別で12~75%、平均30%の貸出比率。

本館

学部名	入館者数(延べ) [F]	貸出冊数(延べ) [G]	[G]÷[F]
法学部	15,482	2,063	13 %
国際学部	15,206	5,021	33 %
経済学部	16,363	2,483	15 %
経営学部	14,255	2,940	21 %
理工学部	25,138	4,334	17 %
現代社会学部	2,502	729	29 %
合 計	88,946	17,570	20 %

分館

学部名	入館者数(延べ) [F]	貸出冊数(延べ) [G]	[G]÷[F]
薬学部	11,327	1,337	12 %
看護学部	2,746	2,058	75 %
農学部	3,859	1,919	50 %
合 計	17,932	5,314	30 %



電子ブックを活用しよう!



図書館ではオンラインで利用できる電子書籍の導入を積極的に進めています。

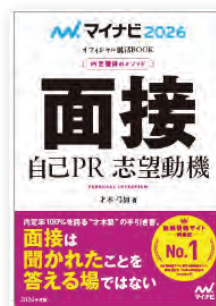
VPN 接続などを利用すれば、自宅をはじめ学外からも利用ができます。

本学で利用できる電子書籍をいくつか紹介します。

Maruzen eBook Library

Maruzen eBook Library は丸善雄松堂が運営する電子書籍提供サービスです。学術研究機関のための専門書や教養書、学術雑誌を取り揃えています。

本学では就職活動に挑む学生向けに、「就職四季報」をはじめ採用試験に用いられる SPI 対策、面接対策ガイド等も契約しています。



GALE EBOOKS

GALE EBOOKS は、学生向けの多読シリーズ等を中心とした電子書籍サービスです。

同時アクセス無制限で、3カ国語に記事を翻訳することができます。また、音声読み上げ機能で本文を聴くこともできます。



KinoDen

KinoDen (キノデン) は、紀伊屋書店による学術和書の電子図書館サービスです。読みやすいビューアや全文検索といった特長を備えており、特に学生に使いやすい電子図書サービスとなっています。

2024年度「摂大文化大賞」入賞作品発表!

図書館では毎年、学生の文化的創作意欲を高めるため「摂大文化大賞」を設け、作品を広く募集しています。

今年度は文芸、美術工芸、写真の3部門に計25点の応募があり、12月20日(金)に寝屋川本館のラーニングコモンズと、枚方分館では8号館のラーニングコモンズをオンラインで中継し、表彰式を挙行了しました。

厳正な審査を経て今年度は大賞、各部門の優秀賞、準優秀賞に7作品が選出され、受賞者には表彰状と副賞を授与し、また受賞者を含む応募者全員に参加賞をお渡ししました。

来年度も、皆さんから多くの応募作品をお待ちしております!

摂大文化大賞受賞作品

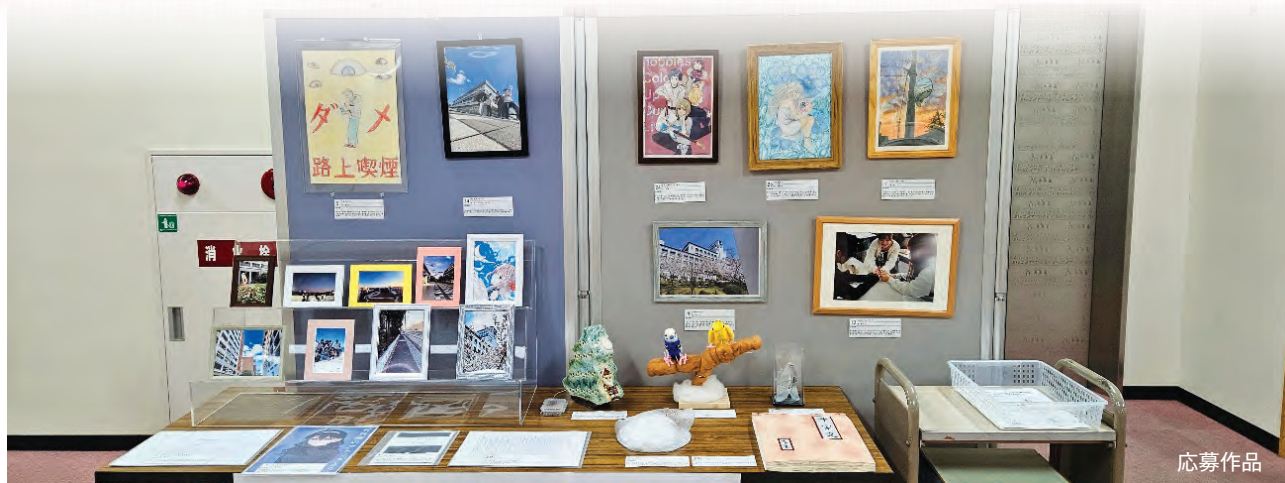
部門 / 賞	作品名
大 賞	フェルトアート 2羽のセキセイインコ
文芸部門 優秀賞	五月雨 (サツキアメ) のアトリエより
文芸部門 準優秀賞	せつだい日記 入学編
美術・工芸部門 優秀賞	千字文
美術・工芸部門 準優秀賞	温かい笑顔
美術・工芸部門 準優秀賞	おつかれサンタ
写真部門 優秀賞	見つけた!!
写真部門 準優秀賞	いっせーので!



大賞受賞者の三好輝さんと柳沢館長



摂大文化大賞作品
「フェルトアート 2羽のセキセイインコ」



応募作品

編集後記

近々、本館に図書自動貸出機を導入します。図書の貸出を利用者がセルフサービスで行える設備です。液晶タッチパネルの操作性も良く、スムーズに利用できます。また、利用者のプライバシーを保護します。使用方法が不明な場合、お気軽にカウンタースタッフにお問い合わせください。また、貸出を従来通りカウンターでも受け付けております。

Smart and Human
摂南大学

「学而」摂南大学図書館報 No.106 2025.3 編集・発行 常翔学園 摂南大学 図書館

本館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8 TEL.(072) 839-9111

分館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町 45-1 TEL.(072) 866-3102

URL:<https://www.setsunan.ac.jp>